



全国からの支援の心に応えるため
未来を担う子どもたちのため
市民が共に支え合い
ふるさと白石に誇りを持てるまちを築いていく

(写真) 園庭で元気にはね回る越河保育園の園児たち(平成24年6月15日撮影)

6月14日、東日本大震災の発生以降、園庭での活動を控えていた越河保育園の園児たちが、1年3カ月ぶりに園庭で元気に遊んだ。園庭の覆土や砂の入れ替え、保育園に隣接する山林の剪定などの除染作業が終了し、空間放射線量の低減が確認されたことから、時間を決めた園庭での活動を再開した。ブランコや滑り台、砂遊び…。待ちに待った外遊びに、園児たちは夢中になっ

てはね回った。震災を経験し、私たちは当たり前であることがどれほど尊いことかを思い知らされた。しかし、それと同時に、人は支え合いながら生きているということも実感した。

ライフラインの復旧など復興への基礎ができつつある今、市民が共に支え合い、ふるさと白石に誇りを持てるまちを築いていくことが求められている。全国からの支援の心に応えるために、子どもたちが大人になっても「白石だいすき」と言ってもらえるようなまちにしていきたい。復興への足音を止めてはならない。

復興への道程はこれからも続く。一人一人が復興を成し遂げたいと思える日まで。

特集 「復興への道程」おわり